



東日本で
いち早く
食べられる
千葉の新米。

安全・安心千葉の新米

JAグループ千葉

第38回 JA千葉県大会

持続可能な 農業・地域・事業・経営基盤の実現

～食と農を基軸として地域に根ざした協同組合であり続けるために～

 JAグループ千葉



基本方向

基本方向



JAグループ千葉
マスコットキャラクター
チパンダくん

JAグループのめざす姿は、JA綱領の理念を示したものであり、JAが「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として今後も変わらず実現をめざすべき姿です。

- (1) 地域の農業を守り育て消費者の信頼に応え、安全で安心な千葉県農産物を持続的・安定的に供給することによって、農家組合員の所得増大を支援している姿
- (2) JA総合事業を通じて、協同の力で豊かな暮らしやすい地域社会の実現に貢献している姿
- (3) 次世代の組合員・地域の方々とともに、食と農を基軸として地域に根ざした協同組合として、存立している姿
- (4) 協同組合としての役割を発揮する土台として、健全で持続可能なJA経営基盤が強化され、収益性や健全性が確保された姿

持続可能な開発目標(SDGs)への取り組み



JA綱領と親和性が高い
SDGsの取り組み

JAグループは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として総合事業と協同活動に取り組むことで、SDGs達成への貢献をめざします。

このため、JAグループの各組織は、本大会における具体的取り組み事項の実践を通じてSDGsへの取り組みを進めます。

共通テーマ

持続可能な農業・地域・事業・経営基盤の実現
～食と農を基軸として
地域に根ざした協同組合であり続けるために～

共通テーマのもと次の5つの項目を柱として全力で取り組みます。

持続可能な食料・農業基盤の確立

持続可能な地域・組織・事業基盤の確立

不断の自己改革の実践を支える経営基盤の強化



「食」「農」「地域」「JA」にかかる県民理解の醸成

協同組合としての人づくり

具体的取り組み事項



持続可能な食料・農業基盤の確立

1. 多様な農業者による地域農業の振興

- 農業構造の変化や組合員との対話等を踏まえて、全ＪＡで地域農業振興計画を策定します。地域農業振興計画においては、可能な限り生産数量目標や販売品取扱高の目標を設定し、その達成に向けて取り組みを進めます。
- ＪＡは、地域の農業・農地を守るという観点から、多様な農業者の農業の継続を支援します。加えて、新たに就農する農業者の支援を行うとともに、次世代の担い手確保について、目標を設定し取り組みを進めます。
- ＪＡは農業経営支援やスマート農業の活用等による省力化等を通じて、中小・家族経営を含めた担い手への伴走支援に取り組みます。また、様々な方法を用いて、ＪＡグループ千葉として農業労働力の確保に努めます。
- 高度なニーズを有する大規模な担い手経営体に対しては、千葉県農業者総合支援センターや連合会と連携した対応を強化します。

2. マーケットインにもとづく販売強化

- ＪＡグループ千葉は、国内で消費するものは国内で生産することを念頭に置き、直接販売の拡大や、ＪＡ直売所等、千産千消の取り組みを進めます。
- また、国内の実需者との結びつきを強化するとともに、輸出やｅコマースの強化等新たな販路の開拓に取り組みます。そして、多様な関係者と連携してフードバリューチェーンを構築します。

3. 地域の実態に応じた持続可能な農業・農村の振興と政策の確立

- SDGsやみどりの食料システム戦略に向けた取り組みが求められる中、ＪＡグループ千葉は、持続可能な農業生産の実現をめざして、地域・作目に応じた農業生産・農村の振興に取り組みます。
- また、その推進・拡大に必要な政策の確立・推進に取り組みます。

4. 組合員参画による事業運営、営農・経済事業体制の構築

- ＪＡは、組合員との積極的な対話により組合員の参画を促し、事業実施・施設運営、収支改善に取り組みます。
- ＪＡは、組合員満足度の向上に向けて、営農・経済事業の業務の重点化・効率化や必要な営農経済事業体制の構築に努めます。また、組合員対応力を強化し、担い手の高度なニーズに対応できる人材育成に取り組みます。

- J Aグループ千葉は、農業ICTの積極的な導入による農業生産性の向上と営農指導等の効率化・高度化を図ります。



センター職員による圃場での支援活動



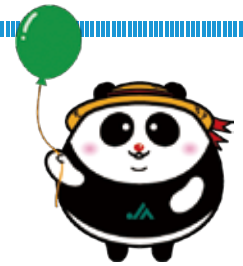
営農事業推進協議会実績発表会の様子



エコリードでは就農希望者とのWeb面接を実施



持続可能な地域・組織・事業基盤の確立



1. 組合員の拡大と組合員の積極的参加による組合活動(アクティブ・メンバーシップ)の確立

- J Aは、「組合員との対話運動」を継続・拡充し、効果的な対話運動の追求と組合員の声にもとづいた組織・事業運営に取り組みます。
- J Aは、すべての正・准組合員を対象とした多様な類型に応じて、以下の取り組み促進を図り、組合員参加活動の強化を進め、J Aへの帰属意識を高めます。
 - ◇地域農業・協同組合・J Aの「理解」
 - ◇J A事業の「複合利用」(貯金と販売事業など2つ以上の事業を利用すること)
 - ◇J Aくらしの活動の「複数・2段階参加」(イベントとカルチャー講座など、参加対象が異なる2つ以上の活動に参加すること)
 - ◇J Aへの「意思反映」「運営参画」
- J Aは、目標を定めて正・准組合員の拡大に取り組みます。
- J Aは、組合員組織・学習活動を棚卸し、体系的な組織・学習活動を再構築するとともに、地域の多様な関係者と組合員が学び合う機会を創出し、J A運営への意思反映・参画の活性化に取り組みます。

2. 連携強化による地域活性化

- J Aは、地域住民に対する農業・J Aの理解促進に加えJ Aの組合員組織や各種団体等と連携し、地域と多様に関わる関係人口の受け皿として、地域との接点を強化します。
- J Aグループ千葉は、健康管理・増進活動にかかる各事業連の連携を強化し、高齢者層に限らない全世代を対象とした組合員・地域住民の健康増進に取り組みます。
- J Aグループ千葉は、地方公共団体や他の協同組合、農林漁商工業団体など、地域の多様な組織と連携して地域の活性化に取り組みます。特に、地方公共団体に対しては、SDGs等を通じて、総合事業と協同活動により農業・地域振興に貢献する包括的な連携協定の締結に取り組みます。

3. 女性・青年の活躍推進

- J A・中央会は、すべてのJ Aで女性組織、青年組織の設置に取り組むなど、女性・青年組織の育成・活性化の支援を行います。
- J Aは、女性・青年層のJ A運営参画を促進するため、理事登用等に資する環境整備に取り組めます。
- J Aは、農業を通じた一層の女性活躍、地域の活性化を後押しします。
- J A・中央会は、青年組織のポリシーブックの作成・活用を支援し、農業者・地域の課題解決や地域の活性化に寄与します。



女性部協議会役員一同



女性部では
太巻き寿司作り講習会を実施



J A青年部員による
とれたて野菜の販売風景



J A青年部員と農業大学校生との
意見交換の模様



3 不断の自己改革の実践を支える 経営基盤の強化

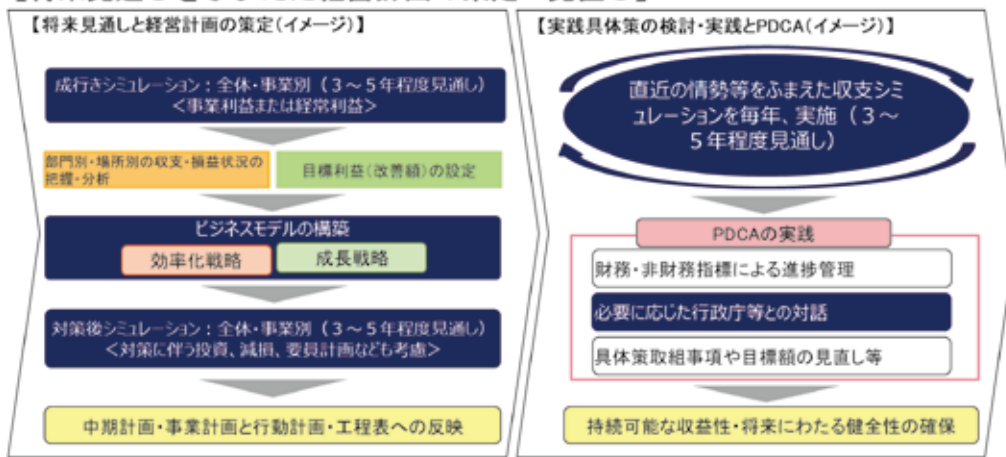
1. 持続可能な経営基盤の確立・強化

- J Aは、県域団体と連携し、経営環境の変化や地域農業の実態等を踏まえた将来の収支シミュレーションの精緻化を図ります。
- この収支シミュレーションに基づき、目標利益(目標改善額)の確保と経営基盤の強化に向けた施策を経営計画に位置づけて実践します。
- とりわけ、経済事業の収益力向上・収支改善と店舗・ATMの再編を重要課題と位置づけます。
- また、老朽化施設等の更新にかかる投資計画を検討・実践します。
- J Aは、中期計画を着実に実践することにより収益確保に取り組めます。
- 組織再編については、現在審議が継続されているJ Aグループ千葉総合審議会の答申を踏まえ、構想案の検討を進めます。
- コロナ禍による社会の一層のデジタル化の進展を踏まえ、J Aグループ千葉は、業務・システムの統一化、デジタル化を進めます。また、情報技術活用促進(デジタルトランスフォーメーション)やサイバーセキュリティ対策強化などシステムリスク管理の高度化に取り組めます。

2. 早期警戒制度の改正も見据えたガバナンス・内部統制の確立と経営の健全性確保

- J Aは、コンプライアンス確立・不祥事未然防止の取り組みおよび事業の継続と安定的発展を確保するため、リスク情報の主体的な収集と適切な経営判断を可能とするためのガバナンス・内部統制の向上に取り組めます。
- J Aは、早期警戒制度の見直しも見据えて、経営者によるJ A経営のPDCAを一層確立・強化するとともに、実践状況について組合員をはじめ、J A内外へ伝える説明力・対話力の向上を進めます。

【将来見通しをふまえた経営計画の策定・見直し】



資料：JA 全中作成



4 協同組合としての人づくり

1. 協同組合らしい人づくり

- 激変する環境と課題を踏まえ、変化に対応できる協同組合としての人づくりをすすめることが必要となります。このため、JAは協同組合としての理念・経営戦略を踏まえ、JA人材育成基本方針の策定・見直しに取り組み、実践します。
- JAは、多様な人材と働き方改革の進展が見込まれる中、JA人材育成基本方針において、求められる「JA職員像」（育成する「JA職員像」）を明確にします。
- JA役職員は自己学習・相互研鑽をすすめ、環境変化を捉えた協同組合運動を実践するため、体系的な人材育成に取り組みます。
- JAは、職員の安定的な確保・離職防止や多様な人材の活躍を促すため、「JAらしい活力ある職場づくり」に取り組みます。
- JAグループ千葉は、デジタルの劇的な進展に対応することにより、事業・経営の合理化・効率化を図るため、デジタル環境に対応した人材育成に取り組みます。



「食」「農」「地域」「JA」にかかる 県民理解の醸成

1. 「食」「農」「地域」とこれらを支える「JA」にかかる県民理解の醸成

- JAグループ千葉は、食・農・地域の実態と国消国産・食料安全保障の意義について、広く県民に訴える広報活動を展開します。
- また、これらを支えるJAの役割について、グループ内外に効果的な情報発信を行い、県民理解の醸成とJAの認知度を高め、信頼・共感づくりに取り組みます。

2. 広報活動の位置づけの見直しとグループが一体となった情報発信の展開

- JAは、あらためて、JA内における広報活動の位置づけを見直し、戦略的な広報活動を展開します。
- JAグループ千葉は、スマートフォンなど手元から情報を得るという情勢を認識し、デジタルメディアやその他の多様なメディアを活用した情報発信強化を進めます。
- JAは、「訴求内容(何を)」・「訴求対象(誰に)」を合わせ、同じベクトルで一体感をもったの情報発信に取り組みます。
- また、JAグループ千葉全体で一層の効果的・効率的な情報発信を行うとともに、一体的な体制づくりの検討を進めます。



千葉県産米PR冊子
「OKOME TABEYO」



JAグループ千葉HPをリニューアル公開!!
(画像はリニューアル時のトップ画面)



県内JA役員を一同に集めた
広報トップセミナー

JA綱領—わたしたちJAのめざすもの—

わたしたちJAの組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則(自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等)に基づき行動します。そして、地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

わたしたちは、

- 1 地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
- 1 環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
- 1 JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
- 1 自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
- 1 協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

協同組合原則

1. 定義

協同組合とは、人々が自主的に結びついた自律の団体です。人々が共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、経済的・社会的・文化的に共通して必要とするものや強い願いを充たすことを目的にしています。

2. 価値

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、連帯という価値観に基づいています。組合員は、創始者達の伝統を受け継いで、正直、公開、社会的責任、他者への配慮という倫理的な価値を信条としています。

3. 原則

〈第1原則〉自主的で開かれた組合員制

〈第2原則〉組合員による民主的な管理

〈第3原則〉組合財政への参加

〈第4原則〉自主・自立

〈第5原則〉教育・研修、広報

〈第6原則〉協同組合間の協同

〈第7原則〉地域社会への係わり



持続可能な農業・地域・事業・経営基盤の実現 ～食と農を基軸として地域に根ざした協同組合であり続けるために～

めざす姿
(10年後)

持続可能な農業の実現

豊かでくらしやすい
地域共生社会の実現

協同組合としての
役割発揮

中期的に考慮すべき環境変化

農業・農村の危機

組織・事業・経営の危機

協同組合の危機

組合員・担い手・
農地の減少

持続可能な社会
実現への要請

食料・農業・農村
基本計画

コロナ禍による
価値観・行動の変容

拡大するデジタル化

早期警戒制度
地銀再編

新たな事業機会
の確保

中長期(10年後)を見通して重点的に取り組む5つの柱

持続可能な2つの基盤確立とそれを支える土台

1

持続可能な
食料・農業基盤の確立

2

持続可能な
地域・組織・事業基盤の確立

3

不断の自己改革の実践を支える経営基盤の強化

横断的な取り組み

4

協同組合としての人づくり

5

「食」「農」「地域」「JA」にかかる県民理解の醸成

対話を通じた不断の自己改革

【3つの基本目標】

農業者の所得増大

農業生産の拡大

地域の活性化

取組実践方策(令和4年度～令和6年度)

1

多様な農業者による地域農業の振興

2

マーケットインにもとづく販売強化

3

地域の実態に応じた持続可能な農業・農村の振興と政策の確立

4

組合員参画による事業運営、営農・経済事業体制の構築

5

組合員の拡大と組合員の積極的参加による組合員活動(アクティブ・メンバーシップ)の確立

6

連携強化による地域活性化

7

女性・青年の活躍推進

8

持続可能な経営基盤の確立・強化

9

早期警戒制度の改正も見据えたガバナンス・内部統制の確立と経営の健全性確保

10

協同組合らしい人づくり

11

「食」「農」「地域」とこれらを支える「JA」にかかる県民理解の醸成

12

広報活動の位置づけの見直しとグループが一体となった情報発信の展開

大会決議の実践